

欠席委員からのご意見

○ 近森委員

- ・ 太田川水系河川整備計画（変更本文）の住民理解を深めるため、専門用語集を別途整理してウェブサイトに合わせて掲載するとよいと思われる。
- ・ 事業再評価について、費用対効果分析については治水経済マニュアルに基づいて実施しているが、太田川中流部は資産が少ないことから、費用対効果分析に加えて新しい水害指標などをとりいれて、総合的な評価として事業評価の仕組みを今後検討していく必要があると思われる。

○ 村上委員

- ・ バックウォーター対策は治水対策として重要であると思うが、本川洪水時に堰上げにより流れが緩くなる支川は、魚が逃げる場としても重要である。
- ・ 河道掘削についての意見が多く、堆積土砂の撤去や砂利採取規制の取り組みなどを実施していくのは治水対策としては必要と思われる。一方、太田川の特徴は、広島花崗岩により砂の供給は多いが、河岸は堤防護岸や道路擁壁で保護され削られるところが少なく礫の供給が減少している。そのため、岩盤河川や砂河川のような河床材料に変化の無い川になりつつある現状も把握しておく必要がある。